



記念号
(32号)
平成25年9月
五条小学校内
はぐくみネット事務局
TEL:06-6772-4831

五条小学校 創立100周年 おめでとう



撮影：国際総合企画株式会社

創立100周年記念 大阪市立五条小学校 2013年6月4日撮影

お知らせ

五条小学校 創立100周年式典

日時 平成25年11月2日（土）午前10時から12時まで
場所 五条小学校講堂

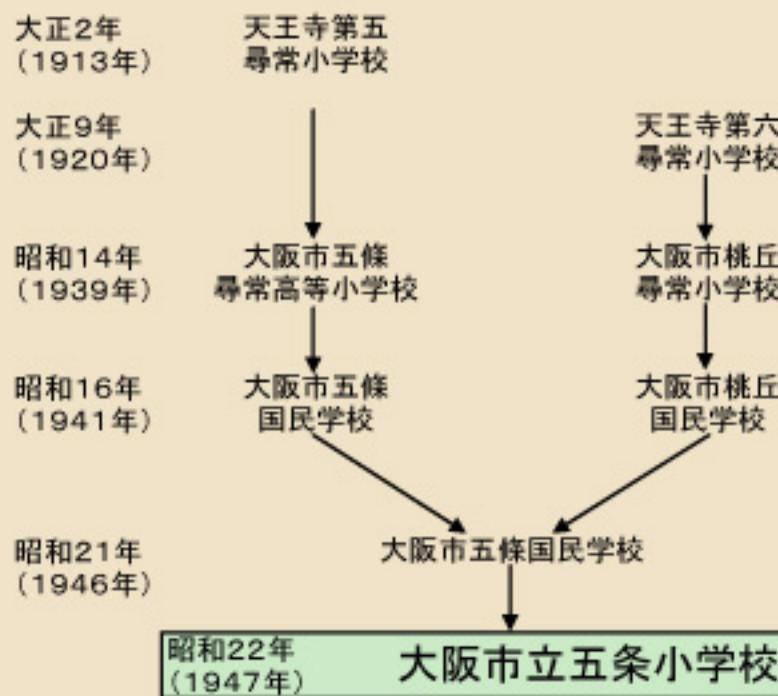
創立100周年行事については、こちらで詳しく紹介しています。

URL <http://www.ocec.ne.jp/es/gozyou-es/100th/>

昔の五條小学校とその移り変わり

五條小学校

桃丘小学校



開校の頃の先生方



大正時代の五條小学校

五條小学校の最初の卒業生 大正3年
男子と女子は別々のクラスでした

卒業生からのメッセージ



安藤義信・紀子（昭和22年卒）

「六年間の國民學校」

2012年3月15日寄稿

五條國民學校は、昭和16年4月、僕らが一年生に入学した年に生した。そして卒業と同時に小学校に戻った。この六年間全て在籍したのは我々年代だけである。入学の年に戦争が始まり、五年生で終戦を迎えた。二年間吉野山での集団疎開も経験した。思えば波乱に満ちた年月であった。校庭には本物の単葉飛行機も置かれていた。少国民の我々は、何時かは土浦や江田島へ進んで、お国のために戦う覚悟で居た。

しかし今振り返ると、我々世代は仕合せであった。まず、戦場で生命を落としたり、学徒動員で汗まみれになる苦労をせずに済んだ。次には、戦前と戦後、両方の教育を受けた結果、思考の柔軟性を身に付けられた。都会の生活しか知らなかつた子供が、疎開先で田舎暮らしや自然に親しむ機会を得られた。戦後は経済復興に邁進し、平和国家・文化国家を建設するという明確な目標を抱けた。過保護の教育を受けなかったから、自立と責任を自覚する人間に成長出来た。

我が家は、母が五條の卒業生で、僕が入学した時の教頭も母の叔父であった。そうした環境から、当然のごとく、僕は越境してこの名門校に入学した。実は家内も五條の同級生である。それは父の遺言によるもので、遠くから電車で通った。お蔭で共に五條の卒業生であることを誇りに人生を過ごして来られた。

母校は来年、創立百周年を迎える。僕は、学校発足時に、地元有志が八千円もの大金を出して下さったことを知っている。その方々のためにも、母校が何時までもその伝統と誇りを忘れず、社会に貢献する人材を輩出し続けることを期待したい。

昨年、我々は、卒業後初めての同窓会を母校で開いた。卒業名簿に131名の名前が記載されていた仲間のうち、40名が集まつた。何れも無事に喜寿を迎えた仕合せ者たちであった。

創立100周年まことにおめでとうございます
鎌田伸子（旧姓浜田）（昭和22年卒）



桃丘国民学校最後の写真（五條国民学校の屋上にて）
背景は昭和21年3月の焼野原

1941年から47年まで、旧五條小学校出身者卒業以来初の同窓会が平成23年6月19日、69年ぶりに母校で初めて開かれました。長年にわたって、夕陽丘中学校同窓会の名簿とともに有志が同窓生をさがし開催にこぎつけました。この日は旧五條国民学校と、同校に46年併合された旧桃丘国民学校の同窓生をまじえ40人が参加いたしました。私はその日は体調をくずし出席はできませんでしたが、この日の事はたいへんうれしく、友情の深さに感謝いたしました。

今の五条幼稚園、図書館、桃丘会館のあるところが、桃丘国民学校のあったところです。その後五条小学校の3、4年生の分校に使っておりましたが、元の小学校が改築され統合となりました。長い歴史の中で、今はお亡くなりになられた先生方、故長谷川先生は息子達がお世話になりました。恩師の先生方、多くの諸先生方に心から御礼を申し上げるとともに、五条小学校のさらなる発展をお祈りいたします。



故 小泉潤（昭和22年卒）

国民学校同窓会原稿
五条小学校100周年記念 「心のキャンパスに」

昭和21年秋、国民学校5年生の時であった。図画の時間に先生は「今日は写生に出かけるが何も持つて来なくて良い、私についていらっしゃい」と言って生徒を連れて出発した。行く先は知らされていなかった。都会の焼け跡の真ん中を通って私達がたどり着いたのは大阪駅の構内だった。広くて薄暗い構内を先生は案内した。そこに見た物はずらりと並んだ筵の上に座り込んだお母さんと子どもたち、老人たちのみじめな姿だった。当時11歳の私たちの胸に焼き付いた忘れ得ない光景だった。以後、私の人生のキャンパスにしばしばその光景が映し出される。

もう1枚の心の絵は父の死の時である。当時、奈良県吉野山に集団疎開していた私達兄弟は急に呼び出されて大阪の実家に戻った。そこには栄養失調で骨と皮になって横たわっている父の姿があった。母は顔の上に被せてあった白い布を取った。父は目を大きく広げて天井を向いていた。死の深淵を見てしまった。私はその時以来なにものも恐れない人間になったような気がする。

私の平和運動、戦争反対の運動の原点はここにあるような思いがする。私の願いは子どもたちに、孫たちに、この心のキャンパスに残された2枚の絵を語り継いでいくことである。



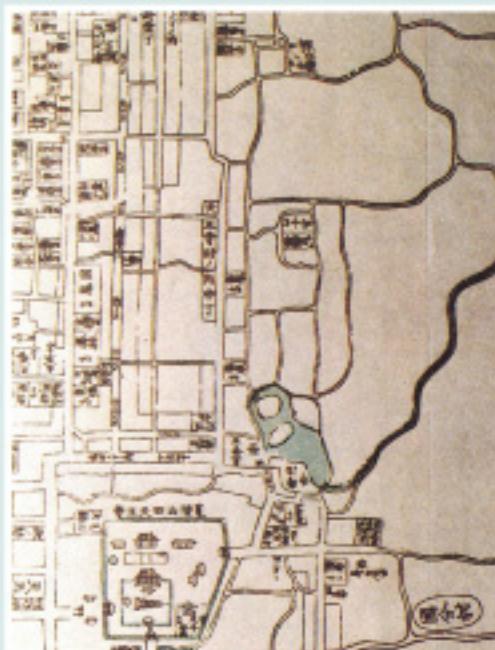
五条小学校分校舎 東南角から望む(左) 正門と校名表札(右)
昭和57年6月鎌田伸子撮影 その後7月から除却開始

「土曜日が休みに」

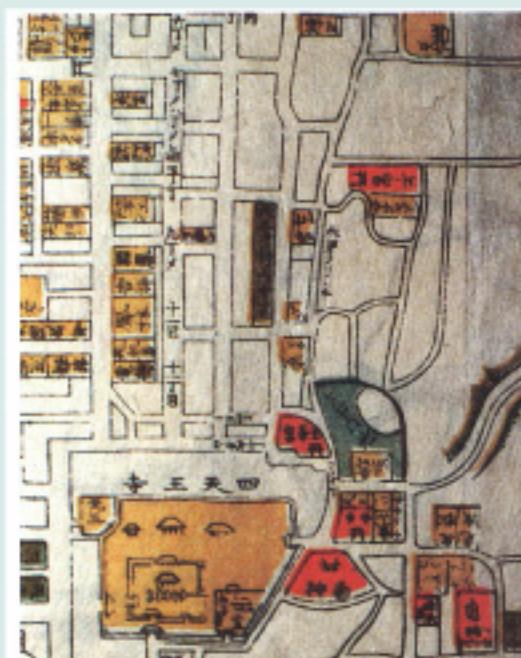
高尾一樹（平成14年卒）

土曜日は午前中だけの授業でしたが、ゆとり教育ということで、途中から休みになりました。当時の私は学校に行くことが楽しみでしたので、がっかりしたことを今でも覚えています。円周率が3.14から3になったりと、甘やかされて育ったゆとり世代ですが、五条っ子には心配無用です。懸命に働き、先輩方のように社会に貢献していますよ。

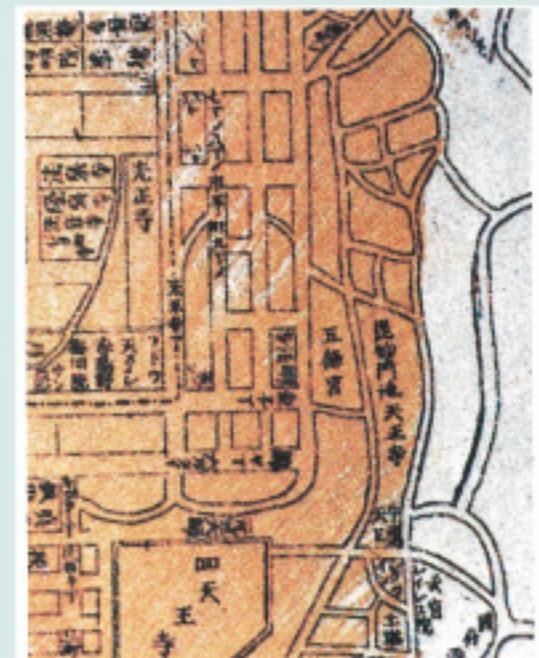
古地図に見られる五条小学校付近の移り変わり



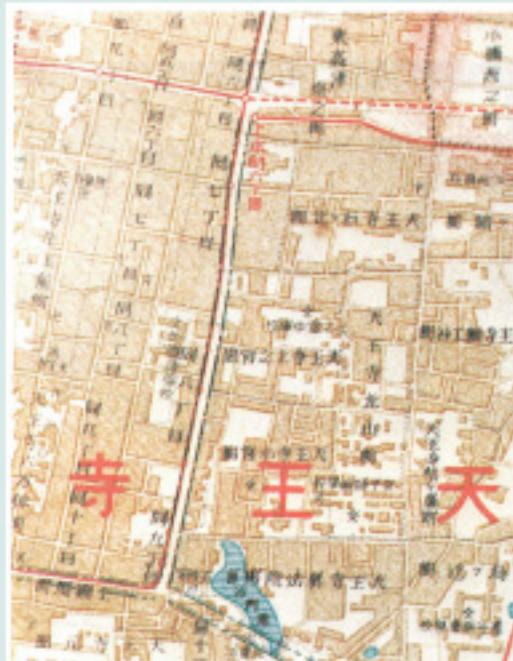
文化3年（1806年）



弘化2年（1845年）



明治23年（1890年）



大正14年（1925年）



昭和13年（1938年）

ほとんどの地図の左下部には四天王寺が描かれています。そして四天王寺の北東部には毘沙門池という大きな池がありました。江戸時代の後期は、今の五条小学校のあたりはいちめんの桃畠や茶畠が広がっていたらしく、毘沙門池はその灌漑用として使用されていたようです。地図を見ても明らかのように、明治23年までは五條宮や上之宮、壽法寺などが見えるだけですが、大正時代に入り天王寺区の人口が増加し、五条小学校の前身の第五尋常小学校が開校し発展するころになると、色々な建物が立ち並ぶようになってくるのがわかります。その頃になると毘沙門池もその役目を終え、大正15年には完全に埋め立てられました。天王寺区役所は池の北端になります。

将軍地蔵尊子ども盆踊り



五条小学校の西側には將軍地蔵尊がまつられています。毎年8月23日・24日には地蔵盆が開かれ、校庭には櫓が立てられて盛大に子ども盆踊りが催されます。五条小学校の児童やPTAはもちろん、地元の保存会を中心となって町ぐるみで盛り上がり約2千人の人々が参加しています。

ここに安置されている地蔵尊の詳細な由来は、將軍地蔵尊保存会で述べられていますが、現在地に再建されたのは昭和28年で、保存会が発足し、町を挙げてのお祭りが始まりました。

平成15年には町の人たちから寄付を募って覆い屋が建てられ、戦災で傷んだ石像も補修して、同7月には盛大に落慶法要も行われました。

これからも町の人々によって、將軍地蔵尊とともに地域の安全を見守り、特に子ども達の安全が見守り続けられます。



昭和60年（1985年）



平成25年（2013年）